



蟹江町朝市部会

(左から)戸谷よ志さん、志治滋さん、一柳英子さん
志治さんをご両親の代わりに朝市へ商品を持ってきています。

お客さんと一緒に作っていく朝市



「おはようございます」と元気な声が緑樹の木陰に集まってくる。休日の朝、朝市が立つ。平成の初めから始まった蟹江町朝市部会の朝市は、毎週土曜か日曜、役場、蟹江支店、富吉駅前の三力所で開市している。

お客さんは十数人と少ないが、一人ひとりの顔は明るい。「毎週、顔を合わせるのが楽しみ。新鮮な野菜を買うことより、世間話が目的」とのこと。

販売する生産者の車が着くたびに、お客さんが商品を運ぶのを手伝う。これがこの朝市の習慣だ。売るほうも買うほうも古くからの顔見知り。ほしいものを話し合っって、ゆずりあって、納得のお買い物だ。

部会長を務めるのは服部良則さん。カーネーションを始め、様々な花を育



「最近では部会の高齢化が気がかりだ、当初は39名いた部会員が、三十数年を経て今では九名にまで減った。畑があつて生産する人はいるけれど、朝市に持ってきて対面で販売までやろうという人はなかなかいない」と服部さん

「はい、常連のお客さんはいつも来てくれて、楽しそつに買い物をしていく。」

最高齢の部会員は93歳になる。ベテランの農家たちが育てる作物と世間話。これが朝市の魅力なのだろう。

「常連のみんながそろわないと、『あの人は孫の世話で忙しい』なんて話で盛り上がる。そんなお客さんとの交流が朝市を続けられた理由の一つ。来てくれる人たちのためにも、新しいメンバーを育ててこの朝市を続けていきたい」と話す。